



ほつとするね
緑の府中

指導室 だより

第 86 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063

第15回府中市小・中学生の人権作文発表会

守ろう人権！ 生かそう！ 十代の声

第15回府中市小・中学生の人権作文発表会が、12月11日(日)府中の森芸術劇場「ふるさとホール」で行われ、大勢の保護者、市民、各種団体の方が参加した。

始めに、野口忠直府中市長代理、府中市教育委員会系満純一郎教育長より、

「府中市では、未来を担う子供たちに人権について考えていただく本日の催しをはじめ様々な機会をとらえ、人権尊重の重要性について皆さんとともに考え行動してまいりたいと思います。」とのあいさつがあった。

また、小・中学生の作文発表後の「大人からのメッセージ」では、人権作文発表会実行委員会副委員長・府中市立若松小学校鈴木達夫校長より



発表者 石田 潤子さん

「すべての人が人間として大切にされ、尊重されるようになってほしい。」とのメッセージがあった。

私の大好きな祖父

府中市立府中第二中学校
第三学年 石田 潤子

私の大好きだった祖父は、私が小学校二年生のときに、胃腸で胃を一部切除した。祖父は前にたばこを吸っていたが、お酒も沢山飲んでいて、祖母にその二つをやめるよう、説得され、たばこをやめ、お酒も少ししか飲まなくなった。しかし胃には癌ができていて、病院で切除しなくてはならない、と診断された。私は祖父が心配だったが、手術は無事に終わり、小学校三年生の夏休みに実家を訪れたときは、大体は椅子に座ったままだったが、元氣そうだったので、安心して。祖父と外出することではできなかったが、一緒に話したり、花札を使って遊んだりすることがなにより楽しかった。癌もないし、祖父はもう大丈夫そう思っていた。しかし何か月

か経ち、祖父は体調が悪くなり、また病院に戻った。もう病院に戻ることはない、と思っていたが、こんなことになって、おどろいた上にまた心配になった。そして、小学校四年生の夏休み、祖父に会いに病院に行ったとき、祖父は前会ったときよりもやせていて、少し元氣がなくなっていた。また、腕や鼻には点滴のチューブが繋がっていた。私は、そんな祖父を見て、かわいそうだな、と思った。私にないことができることはないか、と思い祖父の足をもんだ。祖父は、うれしそうに、気持ちいい、と言ったので、私もうれしくなった。そうすると、看護師が部屋に食事運んできてくれた。祖父は、トイレに行きたかったみたいで、看護師に頼んで手伝ってもらった。私はその光景を見て、祖父は少しずつ体が思うように動かなくなっている、ということを実感した。今までそれを認めたくない気持ちがある中であつたが、あの光景を見て、現実を見せつけられた気がした。祖父が少しでも楽に生活できるようにしてくれている病院の人にはとても感謝しているが、少しずつ

元氣をなくしていく祖父を見るのは悲しかった。祖父に、「また来年ね。元氣でね。」と言ひ、笑顔で別れた。まさか、会うのが、二か月後になるとは思わず。祖母からの一本の電話からだった。母ととにかく真剣に話していたので、どうしたのか聞いたら、病院から祖父がそろそろ危ない、と言われたそうだ。母と姉と私で、実家に帰ることにした。祖父が死ぬ、なんて信じられなかったし、信じたくなかった。飛行機では、夜中なのに、祖父のことが気になって、一睡もできなかった。ただ、祖父が元氣に、生きていることを願ひ続けた。実家に着いたら、すぐに病院に向かった。祖父はたった二か月で、前よりもっと細くなっていて、点滴の数も増えていた。祖父には話したいことが山ほどあるのに、いざ目の前になると、何を話せばいいのかわからなくなった。そうすると、祖父は苦しそうな声で、「おじいちゃん、いろいろな人に支えてもらって、潤ちゃんにも会えて幸せだよ。」と言った。祖父の気持ちがよくわからなかった。私は、複雑な気持ちのまま、うん、とだけ言った。そして、私が祖父に最後にやったことは、足もみだった。

うれしそうな顔をしている祖父を見るのが一番うれしかった。そして、別れのときがきた。祖父は笑顔だったが、私は部屋を出たあと、すぐ泣いたので、顔がひきつっていたと思う。そして、祖父はそれから一か月もしないうちに、亡くなった。

祖父に最後に会ったとき、祖父は、いろいろな人に支えてもらったことや、私に会えたことを幸せ、と言っていた。私はあれから、そのことについていろいろ考えてみた。病院生活を送っていた祖父を私は、つらいだろうな、かわいそうだな、と思っていたが、それは間違っていた。自由に、思いのまま動くことはできなかったが、それでも祖父は幸せだと言った。それは、生きたい、と思う祖父を、病院の人、親せき、そして家族など多くの人に支えられたからだ。私は思う。私は沢山の人に祖父を支えてもらったように、これからも私達の世代で、生きたい、と願う人の気持ちを大切にしたい、支えていかなければならないと思った。

私は、祖父から教わったこと、一生懸命生きていた祖父の姿を忘れない。そして、あのときかすかに笑っているような、今にも起きそうな祖父の顔も忘れない。

第15回 府中市小・中学生の人権作文発表会発表者一覧

発表順	学校名	学年	発表者	題名
1	府中第八中学校	1年	松宮大河	勇気という魔法
2	若松小学校	5年	房間由樹	私を産んでくれてアリガトウ
3	府中第五中学校	3年	竹内美玖	共に生きる
4	日新小学校	6年	富沢麻里香	自分自身を精一杯生きる
5	府中第十中学校	2年	村松沙紀	いじめに対する考え
6	小柳小学校	3年	平井未来	ありがとう
7	府中第九中学校	2年	高橋舞衣	あの日変わった自分
8	南白糸台小学校	5年	大野夏美花	中国から来た友達
9	府中第一中学校	2年	塩谷七洋	名前
10	府中第一小学校	6年	雨宮ゆうか	一番難しいこと
11	府中第四中学校	2年	緑川夏生	最後の恩返し
12	府中第五小学校	6年	中野目彩夏	おばあさん
13	府中第一小学校	4年	清水杏実	目がみえない
14	府中第三中学校	1年	熊谷ひとみ	人との絆
15	若松小学校	6年	高橋真樹	当たり前の心を
16	府中第五中学校	3年	吉見彩加里	幼い命を守るために
17	府中第八小学校	6年	大嶋有希那	感謝された一日
18	府中第六中学校	3年	安東大弥	大切な仲間
19	南町小学校	6年	山崎夏海	グレースがくれた宝物
20	浅間中学校	2年	東郷はるか	つまらない欲のために
21	府中第七中学校	2年	鈴木美羽	今という時間を大切に…。
22	住吉小学校	6年	加藤遥夏	いまここにある幸せ
23	府中第二中学校	3年	石田潤子	私の大好きな祖父
24	府中第二小学校	6年	市井湖々奈	日航ジャンボ機つい落25年



職名	氏名
委員長	久芳美恵子
委員長 職務代理者	崎山弘
委員	北島章雄
委員	齋藤裕吉
教育長	糸満純一郎

これに伴い教育委員会の構成は、左記の通りになりました。よろしくお願い申し上げます。



さいとう ゆうきち 齋藤 裕吉 委員

府中市教育委員会では、谷合隆一委員が退任され、平成22年12月22日付で新たに齋藤裕吉委員が就任されました。

府中市教育委員会

新委員の就任



外国語教育における 小・中の接続と連携

府中市立府中第七中学校

校長 山崎 好美

グローバル化が急速に進み、異文化との共存や国際貢献の重要性が叫ばれる中、コミュニケーション能力の育成が強く求められている。そんな中で、21世紀に生きる子供たちの外国語（英語）教育は、大きく変わろうとしている。

◆新学習指導要領の

外国語（英語）教育のねらい

平成23年度から、外国語活動が小学校五・六年生に全面的に実施される。平成24年度からは、中学校の新学習指導要領、平成25年度からは、高等学校の新学習指導要領による外国語教育が始まる。

外国語教育のねらいは、小・中・高を通してコミュニケーション能力の育成にある。各校種別の目標は、小学校では、中学校以降で学ぶ基盤となる「コミュニケーション能力の素地」を、中学校では、「コミュニケーション能力の基礎」を、そして高等学

校では、「コミュニケーション能力」を養うこととされている。

中学校の新学習指導要領には、「小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする」と明記されている。また、高等学校の新学習指導要領では、中学校での学習の接続に配慮し「コミュニケーション英語基礎」が加わるとともに、一層コミュニケーションを重視している。

このことから、新学習指導要領における外国語教育では、小・中・高において、それぞれの接続と連携を重視した指導を行うと同時に、学習内容をスパイラルに指導し、コミュニケーション能力を育成すべきであることがわかる。

◆小学校外国語活動から

中学校英語教育への接続

現在、時間数や学年の違いはあっても、どの小学校でも外国語活動を実施している。小学校

に外国語活動が導入されてから、中学校一年生の授業の様子がかなり変わってきた。以前に比べて、聞く力や話す力は、格段に伸びている。特に、英語を聞いて内容を推測する力が付いている。ALTと恥ずかしがらないで話すことができる。外国や異文化に対する関心も高まっていると感じる。

しかし、残念なことに、入学時に英語に対して苦手意識をもっている生徒がいる。英語の得意な生徒と不得意な生徒の差がすでにある。かつて、生徒が初めて英語に接した時に見せたような目の輝きや気持ちの高ぶりは、中学校では失われつつある。

小学校で培われたコミュニケーション能力の素地を生かし、コミュニケーション能力の基礎を養うためには、接続期である中学校一年生の指導内容、指導方法を大幅に工夫・改善する必要がある。英語に対して苦手意識をもっている生徒や中学校での英語学習に不安を抱いている

生徒に、「英語が分かる、できる」という安心感をもたせることが大切である。英語を学ぶ楽しさや面白さに気付かせ、もっと英語を学びたいという意欲をもたせることが、さらなる学びにつながる。そのためには、次のようなことに留意して取り組む。

- 一、間違いを恐れず発話することのできる雰囲気をつくる。
- 二、音声中心の指導を十分行い、「読む」「書く」を指導する。
- 三、クラスルームイングリッシュをはじめ、小学校で慣れ親しんだ言語活動、ゲーム、クイズ、スキット、歌等を積極的に取り入れる。
- 四、体験的に学ぶ機会や生徒の興味ある場面を設定し、インタラクティブ重視の指導をする。
- 五、少人数指導の導入、学習形態の工夫を行い、発話しやすい教室の学習空間をつくる。
- 六、生徒の学習意欲が高まる評価を工夫する。
- 七、ALTとのティームティーチングを充実させる。

◆小・中連携に向けて

小学校外国語活動を中学校の英語教育に円滑につなげるためには、中学校区内で定期的な連絡会をもち、情報交換をする中で、相互理解を深めるとともに、

それぞれの果たすべき役割を明確に認識することが重要である。その上で、一致協力して効果的に連携を進めなければならない。そのためには、次のようなことに留意して取り組む。

- 一、新学習指導要領の外国語教育の目標、指導内容を十分理解する。
- 二、相互の授業を参観し、実態を把握する。
- 三、中学校教員が、出前授業等を行うとともに、小学校教員が中学校一年生の初期の授業にTTで参加する。
- 四、指導方法や教材を共有し、お互いの授業で取り入れる。
- 五、到達目標を明確にした小・中一貫のカリキュラムを作成するとともに、評価を工夫する。
- 六、英語教室の設置、英語表示、英語放送等を工夫し、英語を学ぶ環境づくりを推進する。
- 七、小学校の外国語活動に、中学校の英語部等の生徒がゲストとして参加する。

小学校と中学校が密接に連携した外国語教育を推進するためには、教員一人一人の意識改革と指導力が最も重要である。日々研さんを積み、子供たちにコミュニケーション能力を育成するための指導力を高めてほしいと願っている。

府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

自ら考え

楽しく学ぶ子供の育成

算数科の授業を通して

府中市立若松小学校
研究主任 大杉 健

1 研究主題について

新学習指導要領の完全実施を目前に控え、若松小学校では、自ら考え楽しく学ぶ子供の育成」を研究主題に設定し、算数授業の充実を目指して研究を進めてきた。研究を進めるに当たっては、単元の目標をしっかりと把握するとともに、授業の流れへつかむV↓△見通すV↓△解決するV↓△深めるV↓△まとめるVを大切にして、全学年の授業研究を行った。当日の授業指導案については、板書と子供のノート・ワークシートと同じ形式で連携がとれるように工夫し、A4一枚で表現することにより、目標と本時の学習活動が一覧することができ、スムーズな授業展開を行うことができた。

2 数学的な考え方と『じゃあの学習』

授業の多くの場面で「なぜな

らば、○○だからです」と児童が自分の考えの根拠を話せるようになることを目指した。具体的には、本時の学習につながる既習事項の内容をヒントに出したり、子供たちから、多様な考えを出させ、その根拠を話させたりして、論理的な考え方をすることを授業の中で目指した。また、若松小学校では、主に△深めるV段階において『じゃあの学習』に取り組んだ。この『じゃあの学習』は、子供たちの「じゃあ、3人が5人になったらどうなるの」とか「じゃあ、三角形が四角形になったらどうなるの」というような子供の発言の言葉からのネーミングである。『じゃあの学習』は、意図的に二つのじゃあに分けて取り組んだ。その一つは、確認、適用の『じゃあ』である。これは、他の数に置き換えると、どのようになるのか、とか別の形の三

角形でも同じことがいえるのかというような 同じレベルでの広がりをもたせた学習である。もう一方は、統合・発展の『じゃあ』である。こちらは、複数の考え方を統合させて、より一般的な考え方を導き出したり、次のレベルや次の学習へと発展させたりしていくような『じゃあ』である。2年間の取組みを通して、子供たちの「じゃあ、この場合は？」という、自ら学習を展開させる場面が増えてきている。

3 学び合い

若松小学校の算数授業の特徴に、聞き合いタイムの取組みがある。これは、子供たち同士でお互いの意見を話したり、友達の見聞きを聞いたりする学習の場である。低学年では、隣同士、



聞き合いタイム

または自分の席の後ろの児童など自分の席の近くの友達と意見交換を行う。中学年では、グループでの話し合い、高学年では、それまでの授業の中での発言も聞きながら、同じ意見の友達と、または別の意見の友達を自分で探して自分の意見を交流する時間になっている。この取組みは、自分の考えを積極的に表現することにつながっている。

4 授業の工夫

各学年で自分の意見を表現する場面でも、様々な工夫を行っている。低学年では、導入時において、子供の興味を引くような足しマン・引きマンなどのキャラクターを生み出したり、わかりやすく伝えるために、具体物を使用したりして発表を行ったりした。また、中学年では、ICTを活用、オリジナルのコンテンツを制作して、授業に取り組んだ。高学年では、過不足問題を提示したり、問題自身を子供自身で作成し、その問題を全員で解決したりするなどの学習に取り組んだ。

また、黒面用紙とチョークを使って小黒板として発表の用具を工夫したり、高学年では友達の考えを別の友達が代わって説明したりする場面を設定するなどの工夫を行った。



こんどは どんな問題かな？

5 若ザムライの挑戦状

廊下の共有スペースに、若松小学校のオリジナルキャラクターの若ザムライから算数クイズが出されている。これは、低・中学年用と中・高学年用と分かれており、多くの児童がこの算数クイズに挑戦して楽しんでいる。

6 今後に向けて

今回は、研究授業の対象になった単元を中心に授業研究を行ってきたが、他の単元での取組みはこれからである。それらの単元においても、目標や子供一人一人がどのようなことを考えているかを把握し研究を進め、算数授業の充実を目指したいと考えている。



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

読もう・調べよう・伝え合おう

伝え合おう

―読書活動を取り入れた国語科の授業の工夫―

府中市立南町小学校

研究主任 吉成 純子

1 研究主題について

本校では、平成18・19年度に研究協力校として国語科の「話す・聞く」領域で、校内研究に取り組んだ。話し方、聞き方についての研究は深まってきた。

しかし、研究を続けていく中で、

①自分の言葉で考えたりまとめたりすること②自分の言葉で表現し伝えること、が大切である

ということを強く感じた。これらの力は読書によって付けていく

力と考えた。南町小学校は長年の職員の努力とボランティア

の方々の協力により、読書活動が盛んな学校であった。今回の研究を通して、児童一人一人に、

豊かな本との出会いや読書の楽しみを味わわせ、「読む力」「調べる力」「伝え合う力」を付け、

課題であった「自分の言葉で考える力」「表現し伝える力」を付けていくことができるのではないかと考えた。

2 研究の内容

読書活動の取組みは大きく三つあった。

①児童の日常活動の中で読書活動を活発にすること

②国語科の授業の中に読書活動を取り入れること

③学校図書館を中心に児童に手渡す本を充実させることである。

日常生活としては、課題図書を決めたこと、全校で読書ノートに読んだ本を記録するようにしたことが大きな取組みである。

課題図書の本棚を学年の廊下に設置したり、学級文庫を教室に置いたりするなど身近に本を置く取組みを進めた。

国語科の授業の中で初めに取り組んだのは、各学年の国語科の年間指導計画を見ながら国語科で扱うすべての単元に読書活動を取り入れられないかを考えたことだ。その後、各学年を、

読もう・調べよう・言葉と詩の

分科会に分け、それぞれの分科会

で、学年の発達段階に合わせた、必要な学習について話し合った。

各学年の発達段階に応じた資料探しは、おおきな課題として取り組んだ。

伝え合おうという活動は、どの分科会でも授業の単元構成の中に取り入れた。

調べよう分科会では、ポケット図鑑の使い方、百科事典の使い方等、その学年に合った調べのためのスキルを学び調べ学習を進めるための方法を学んだ。

「海の生きもの」を調べたり、「食べ物」について調べたり、

高学年では、教科書と資料としての橋渡しになる資料を選び、調べる活動へとつなげる学習を行った。

言葉・詩の分科会では、言葉の決まりや漢字の成り立ちについて本を使っての授業に取り組んだり、詩集をたくさん読んで自分の気に入った詩を選んだり、自分もまねて書いたりなど、詩への取組みも行った。狂言「柿山伏」は、絵本によるおおよその意味をつかむことや音読のおもしろさに取り組むことができた。

4 成果と課題

一番大きな成果は、三つの分科会で系統性を考えながら研究を進めることができたことだ。

この研究全体から見えてきたことは、児童の身近に本を置くことの重要性和本と児童を丁寧につないでいくことの大切さである。本については、選んだ本を手渡したいと考えた。

児童は、本があるだけでは手に取らない。そこには、本を手渡す人が必要である。本のこと

をよく知り、本の良さを伝えられる人の力が必要になる。私たち自身が本を手渡せる人になる研修を積んでいきたい。

児童の変容としては、児童が読んだ本を紹介し合う姿が見られたり、調べ学習の時、図書館で本を調べる姿が見られたりするようになったことなどが挙げられる。

課題としては、図書館を読書センター、情報センターとしての機能を充実させ活用していくこと、授業の工夫を続け、研究を進め、児童の実態に合った本を手渡して行くことである。そして、一番大きな課題は、この研究を継続し、発展させていくことだと考えている。



3 分科会報告

読もう分科会では、アニメーション・お薦めの本の紹介・戦争に関する本を読んだの交流会・教科書に出てくる読み物教材の作者の本を読み合せて、作者について話し合うこと・椋鳩十の本を読んだの読書交流会・宮澤賢治を読んだの読書会等、各学年の学習を発展させる楽しい読書活動が展開された。

調べよう分科会では、ポケット図鑑の使い方、百科事典の使い方等、その学年に合った調べのためのスキルを学び調べ学習を進めるための方法を学んだ。

「海の生きもの」を調べたり、「食べ物」について調べたり、

高学年では、教科書と資料としての橋渡しになる資料を選び、調べる活動へとつなげる学習を行った。

言葉・詩の分科会では、言葉の決まりや漢字の成り立ちについて本を使っての授業に取り組んだり、詩集をたくさん読んで自分の気に入った詩を選んだり、自分もまねて書いたりなど、詩への取組みも行った。狂言「柿山伏」は、絵本によるおおよその意味をつかむことや音読のおもしろさに取り組むことができた。

4 成果と課題

一番大きな成果は、三つの分科会で系統性を考えながら研究を進めることができたことだ。

この研究全体から見えてきたことは、児童の身近に本を置くことの重要性和本と児童を丁寧につないでいくことの大切さである。本については、選んだ本を手渡したいと考えた。

児童は、本があるだけでは手に取らない。そこには、本を手渡す人が必要である。本のこと

をよく知り、本の良さを伝えられる人の力が必要になる。私たち自身が本を手渡せる人になる研修を積んでいきたい。

児童の変容としては、児童が読んだ本を紹介し合う姿が見られたり、調べ学習の時、図書館で本を調べる姿が見られたりするようになったことなどが挙げられる。

調べよう分科会では、ポケット図鑑の使い方、百科事典の使い方等、その学年に合った調べのためのスキルを学び調べ学習を進めるための方法を学んだ。「海の生きもの」を調べたり、「食べ物」について調べたり、高学年では、教科書と資料としての橋渡しになる資料を選び、調べる活動へとつなげる学習を行った。

言葉・詩の分科会では、言葉の決まりや漢字の成り立ちについて本を使っての授業に取り組んだり、詩集をたくさん読んで自分の気に入った詩を選んだり、自分もまねて書いたりなど、詩への取組みも行った。狂言「柿山伏」は、絵本によるおおよその意味をつかむことや音読のおもしろさに取り組むことができた。

4 成果と課題

一番大きな成果は、三つの分科会で系統性を考えながら研究を進めることができたことだ。

この研究全体から見えてきたことは、児童の身近に本を置くことの重要性和本と児童を丁寧につないでいくことの大切さである。本については、選んだ本を手渡したいと考えた。

児童は、本があるだけでは手に取らない。そこには、本を手渡す人が必要である。本のこと

をよく知り、本の良さを伝えられる人の力が必要になる。私たち自身が本を手渡せる人になる研修を積んでいきたい。

児童の変容としては、児童が読んだ本を紹介し合う姿が見られたり、調べ学習の時、図書館で本を調べる姿が見られたりするようになったことなどが挙げられる。

課題としては、図書館を読書センター、情報センターとしての機能を充実させ活用していくこと、授業の工夫を続け、研究を進め、児童の実態に合った本を手渡して行くことである。そして、一番大きな課題は、この研究を継続し、発展させていくことだと考えている。

【研究発表会 記念講演】

演題「読書の楽しみ」

絵本作家 中川 李枝子先生



道徳授業地区公開講座(2月)

◆2月16日(水)

☆府中第四小学校 13時15分～

○講演「心を育てる」玉川大学

教育学部講師 後藤 忠氏

◆2月17日(木)

☆府中第三小学校 8時15分～

○全日の学校公開の中で実施

◆2月19日(土)

☆住吉小学校 8時40分～

○講演「親子のきずなく口腔の健康を通して」NPO法人

アン・スリール 歯科衛生士

佐々木 瑛・原 智子氏

☆南白糸台小学校 8時35分～

○講演「心豊かな子どもを育てる学校・家庭」心の規範を育てる

元東京都小学校道徳教育研究会会長 荒木 徳也氏

☆南町小学校 8時50分～

○講演「障がいのある子どもたちも安心して過ごせる地域づくり」都立あきる野学園 レイン

ボー代表 両角美映さん他一名

※当日の実施内容等の詳細は、各校に問い合わせを

府中市立幼稚園生活発表会

◆2月11日(金)

☆矢崎幼稚園 9時～

☆みどり幼稚園 9時～

◆2月19日(土)

☆小柳幼稚園 9時15分～

2月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	1	火	木	職場体験実行委員会	教育センター
3	木	木	中学校社会科副読本編集委員会	教育センター	協議
7	月	月	特別支援学級代表者会	教育センター	全体会、分科会
7	月	火	生活指導主任会	教育センター	全体会、分科会
8	火	火	副校長研修	教育センター	講義
10	木	木	人権教育推進委員会	教育センター	全体会
10	木	木	職場体験事業推進協議会	教育センター	協議
15	火	火	初任者等研修	学校	研究授業参観、協議
24	木	木	ICT活用推進委員会	学校	電子黒板活用公開授業
25	金	金	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会
28	月	月	特別支援学級代表者会	教育センター	全体会、分科会



私は熊本県の出身である。以前の「指導主事ふぁいる」でも触れたが、高等学校は美術科のある学校に通っていた。その学校では、県立美術館等において良い展覧会があれば科を挙げて鑑賞に行くことがあった。そのたびに美術家の卵として感銘を受けるとともに、有名作家の技術を身に付けたいと真剣に鑑賞したものである。

高等学校3年生になり、美術系の大学に受験するため初めて上京した折に、当時池袋にあった東武美術館（現在は閉館）で前より興味のある年代の作品展が開催されていた。「ウィーン十九世紀末展」という企画展の名前であったと思うが、エゴン・シーレやグスタフ・クリムトなど有名作家の作品が展示されているということ

「本物」に触れること

で足を運んだ。数多くの作品が展示されていたが、その中にあ

るグスタフ・クリムトの「接吻」に目がくぎ付けになり心を奪われた。画集でも見ていたが、「本物」に触れたとき、その圧倒的な迫力と、宝石のように輝く美しい色、その色と色とが紡ぎ合いハーモニーを奏でている精緻で豊かな表現に頭からつま先まで衝撃が走ったことを今でも鮮明に覚えている。この体験はその後の私の作風にも大きく影響を与えた。

「本物」に触れることは審美眼を養える。審美眼とは美醜を分けられる力であるが、数多くの「本物」に触れ経験を蓄積することで、まがいものを見分け、良いものを選択する能力が身に付いていくことにつながる。また、人生の岐路においても大きく作用していくであろうとも思う。

府中市は、公園や街路等に彫塑等の美術作品が街の中にある。昨年開館10周年を迎えた市の美術館では企画展や常設展等で「本物」を提供し続けている。また美術に限らず音楽会や演劇等も各施設で催されている。このような府中市の「財産」を更に活用し、子供たちが「本物」に触れ学び、心豊かに生きる一助とできたらと思う。

(指導主事 大津 嘉則)

学びの窓

浅間山を学習の場に

浅間山自然保護会 会長 山田 義夫

浅間山自然保護会は、浅間山の自然環境の保全及び山野草の保護育成を主たる目的に活動しています。毎月第二土曜日と第四日曜日を定例作業日に定め、間伐や枝打ち、下草刈り、稀少植物の保護などの作業を行っています。そのうちの5月と9月の全山清掃、6月のヤマユリの手入れ作業に、若松小学校から校長先生を筆頭に、毎回約50人の児童親子が参加しています。慣れない手つきで鎌を手に、草刈りする親子の姿はほほえましく、子供たちは、自然を守る大切さを学んでいます。若松小学校は、全学年が浅間山をテーマに学習しています。地域ぐるみで子供を育てる学校の指導方針に、私たちは賛同し、微力ながら協力しています。自然の中で子供たちは、樹木や草花に触れ昆虫を観察して、自然界の営みを学んだ子供たちが、やさしく、たくましく成長することを願っています。学校の教育だけに限らず、家庭でも、浅間山を子育ての場として活用することをすすめます。私たちは、そのための協力を惜しみません。